議題資料1

未来年表からみる県政の中長期戦略

2013年2月23日
第5回三重県経営戦略会議

三重県

目　次

〔頁〕

1　はじめに　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1

2　三重県が想定する3つの大きな山

２－１　概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・2

２－２　１つ目の山（2013～2014年）・・・・・・・・・・・・・・・・・3

２－３　2つ目の山（2018～2021年）①・・・・・・・・・・・・・・・4

2つ目の山（2018～2021年）②・・・・・・・・・・・・・・・5

２－４　3つ目の山（2026～2027年）①・・・・・・・・・・・・・・・6

3つ目の山（2026～2027年）②　・・・・・・・・・・・・・・・7

3つ目の山（2026～2027年）（参考①）　・・・・・・・・8

3つ目の山（2026～2027年）（参考②）　・・・・・・・・9

3つ目の山（2026～2027年）（参考③）・・・・・・・ 10

1　はじめに

　日本は、人口減少や人口高齢化における「フロントランナー」として世界の先頭を走っている。三重県も、人口減少や少子高齢化の進行に伴い、様々な課題が生じており、既存の社会経済システムのあり方があらゆる分野で見直しを迫られている。
　そういう状況の中においても、おおむね20年先（2030年）を見据えると、県内及び国内外において大きな事象、プロジェクト等が予定されており、三重県政におけるターニングポイントとして3つの山があると考えている。

【論点】

　県政の中長期戦略を検討する際に、特に2つ目と3つ目の大きな山に向けて、三重県として何をターゲットにし、どのような対策をしていけばよいか。
　また、これから準備しておくべきことは何か、その他留意しなければならない視点はないか等、大局的な観点からご意見をいただきたい。

2－1. 三重県が想定する3つの大きな山　概要

・三重県政におけるターニングポイントとして、今後３つの大きな山が存在。

①1つ目の山（2013-2014年）

2013年　第62回神宮式年遷宮
2013年　紀勢自動車道（海山ー紀伊長島間）、
　　熊野尾鷲道路（三木里ー熊野大泊間）開通
2014年　新県立博物館開館
2014年　熊野古道世界遺産登録10周年

②2つ目の山（2018-2021年）

2018年　新名神高速道路（四日市ー亀山間）全面開通
2019年　四日市港開港120年
2020年　東海環状自動車道（西回り）開通
2021年　第76回国民体育大会及び第21回全国障害者スポーツ大会
　　の三重県開催

③3つ目の山（2026-2027年）

2026年　三重県政150年
2027年　リニア中央新幹線（東京ー名古屋間）の開通
（未定）　県南北を結ぶ高速道路のﾐｯｼﾝｸﾞﾘﾝｸ解消

2－2. 1つ目の山（2013～2014年）

・１つ目の山では、県内の歴史的な価値を国内外にアピールするイベントが相次ぐとともに、新県立博物館がオープン。

●第62回神宮式年遷宮（2013年）

遷宮とは、神社の正殿を造営・修理する際や、正殿を新たに建てた場合に、御神体を遷すことである。式年とは定められた年という意味で、伊勢神宮では20年に一度行われる。

第1回の式年遷宮が内宮で行われたのは、持統天皇4(690)年のことで、それから1300年以上にわたって続けられ、2013年に第62回目が行われる。

●熊野古道世界遺産登録10周年（2014年）

三重県の南部、伊勢と熊野を結ぶ熊野参詣道伊勢路等は、2004年７月に「紀伊山地の霊場と参詣道」としてユネスコの世界遺産リストに登録された。道の世界遺産としては、世界で2番目の貴重な文化遺産である。

2007年２月には、熊野古道の情報発信拠点として、三重県立熊野古道センターを尾鷲市向井地区に整備した。

●新県立博物館開館(2014年）

現博物館（1953年開館）の老朽化、スペース不足などを契機として、2008年3月「新県立博物館基本構想」を策定し、県民の皆さまとともに三重の特色である「多様性」を探求し、生かすことにより、力にしていくことをテーマにしている。

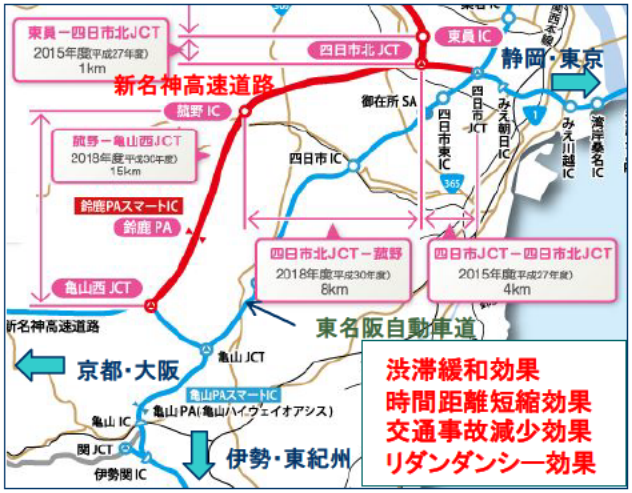
そして「ともに考え、活動し、成長する博物館」を活動理念に、三重の資産の保全や人づくり、地域づくりへ貢献することが期待される。

（出典）三重県

2－3. 2つ目の山（2018-2021年）①

・２つ目の山では、県内の高規格道路のインフラ整備が進み、人・物の流れが大きく変化する可能性がある。加えて､国際貿易港である四日市港が開港120年の節目を迎える。

●新名神高速道路　四日市−亀山間全面開通（2018年）



2008（平成20）年２月の新名神高速道路　亀山−草津田上間開通に伴い、従来東名・名神経由の車両が、東名阪・新名神経由にシフトし、東名阪自動車道　四日市−亀山間は慢性的な渋滞に見舞われ、全国的にも有数の渋滞ｽﾎﾟｯﾄとなっている。

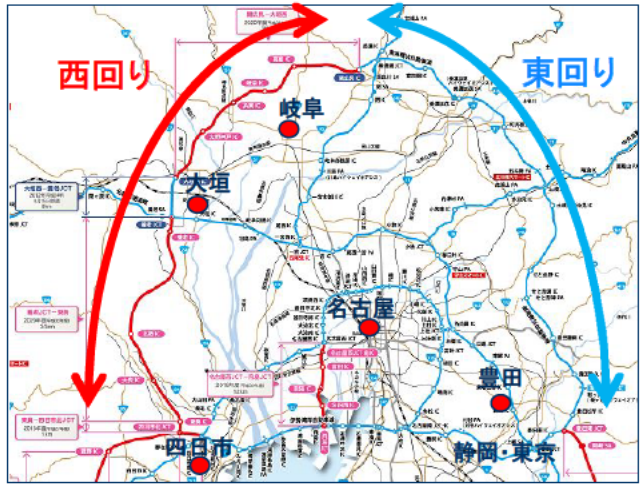
新名神　四日市−亀山間が開通すれば、東西の通過交通と伊勢方面の観光交通が分散し多様な効果が見込まれる。

●四日市港開港120年(2019年)

1899（明治32）年8月4日に開港した四日市港は、特定重要港湾に指定されており、中部圏における代表的な国際貿易港として、また、我が国有数の石油コンビナート等を擁するエネルギー供給基地として重要な役割を担う。

また、オーストラリア東部に位置するシドニー港とは、古くから羊毛の貿易を通じてつながりが深く､1968(昭和43)年に姉妹港提携を締結した。

●東海環状自動車道（西回り）開通(2020年)



東海環状自動車道は、愛知県豊田市から岐阜県を経由して三重県四日市市に至る高規格幹線道路で、東海地方の製造業の集積都市を結ぶ道路として、期待されている。

東回りは、2005（平成17）年３月の日本国際博覧会（愛・地球博）に合わせる形で整備された。西回りが開通すると、三重県北部と岐阜県西濃地域の交流が盛んになる見込み。

（出典）四日市港管理組合、中日本高速道路㈱

2－3. 2つ目の山（2018-2021年）②

・2018年に全国高等学校総合体育大会が、また2021年に第76回国民体育大会及び第21回全国障害者スポーツ大会が三重県で開催される。また、概ねこの時期には、新エネルギーの導入が進み、県民の皆さんが豊かさを実感できる「スマートライフ」への転換が進んでいる。

●大規模スポーツ大会の開催

・全国高等学校総合体育大会の開催（2018年）

・第76回国民体育大会及び第21回全国障害者スポーツ大会の三重県開催（2021年）

2018（平成30）年の全国高等学校総合体育大会は、50回目の節目の大会で、1973（昭和48）年の三重県での単独開催以来45年ぶり2回目、三重・愛知・岐阜・静岡の4県で開催する。

2021（平成33）年の第76回国民体育大会は、1975（昭和50）年の第30回大会「みえ国体」以来、46年ぶり2回目の三重県開催となる。

また、国体にあわせて、第21回全国障害者スポーツ大会も開催する。

これらの大会を契機に、スポーツを通して、県民の皆さんに夢と感動を与えることで、地域の一体感が醸成され、活力に満ちた元気な三重づくりが進んでいる。

●スマートライフ推進協創プロジェクト

世界規模での環境・エネルギー問題に直面している中で、成長分野である環境・エネルギー関連分野の技術の活用やエネルギーの効率的な利用を図りながら、ライフスタイルや生産プロセスなどあらゆるシーンで変革を促す取組を進め、環境負荷を減らしながら、県民の皆さんが豊かさを実感できる「スマートライフ」への転換が進んでいる。

●その他の未来予想

＜技術分野＞

2016年
・がんの免疫療法を実現する「がん治療ワクチン」が新薬として承認へ
・スマートメーターを総需要家の8割に導入

2017年までに
・iPS細胞／ES細胞、臨床研究に移行

2019年
・メタンハイドレートの商業化

2020年
・住宅用太陽光発電システムが530万戸に導入

＜その他＞

2020年
・年間の訪日外国人旅行者数2,500万人を達成

（出典）三重県、野村総合研究所「NRI未来年表2013～2060」、プレジデント社「PRESIDENT」2013.1.14号

2－4. 3つ目の山（2026-2027年）①

- ３つ目の山では、2026年に三重県政150年を迎える。この頃には、県内人口が2010年対比約10万人減少し、約175万人となる見通し。
- 一方、この時期にリニア中央新幹線（東京－名古屋間）の開業が計画されている。

●三重県政150年（2026年）

1871（明治4）年11月の第2次廃藩置県で、安濃郡以北の伊勢国・伊賀国が安濃津県、一志郡以南の伊勢国と志摩国及び紀伊国の一部が度会県となった。その翌年、安濃津県は津にあった県庁を三重郡四日市町に移転し、県名を三重県と改称した。その後、県庁を津に戻し、1876(明治9)年4月に度会県と合併し、現在の三重県が誕生した。

●リニア中央新幹線の開業 東京-名古屋間（2027年）

<JR東海の計画>
2027　東京－名古屋間開業
2045　名古屋－大阪間開業

JR東海の計画によると、東京-名古屋間は2027年に整備予定で、開通すれば同区間が約40分で結ばれる。
首都圏と中部圏において、日帰りで十分ビジネス交流などが可能な“１日交流圏”の拡大にともない、ヒト・モノ・情報の交流が活発化し、業務流動・観光流動が活性化するとともに、両圏域の結びつきが強くなると見込まれる。

●県南北を結ぶ高速道路のミッシング゛リンク解消（時期未定）

県の南北約220kmがすべて高規格幹線道路で結ばれることにより、ミッシング゛リンク（Missing-link：未整備区間で途中で途切れている区間）が解消され、南北交流が盛んになることが期待される。

●技術分野の未来予想

【2030年代】

- ・コンピュータの人工知能が人間の脳と近い能力を備えるようになる
- ・遠隔操作型ヒューマノイドロボット技術が確立
- ・iPS細胞を活用した筋再生、臓器再生技術が実用化
- ・安全な遺伝子治療が可能に

【2040年以降】

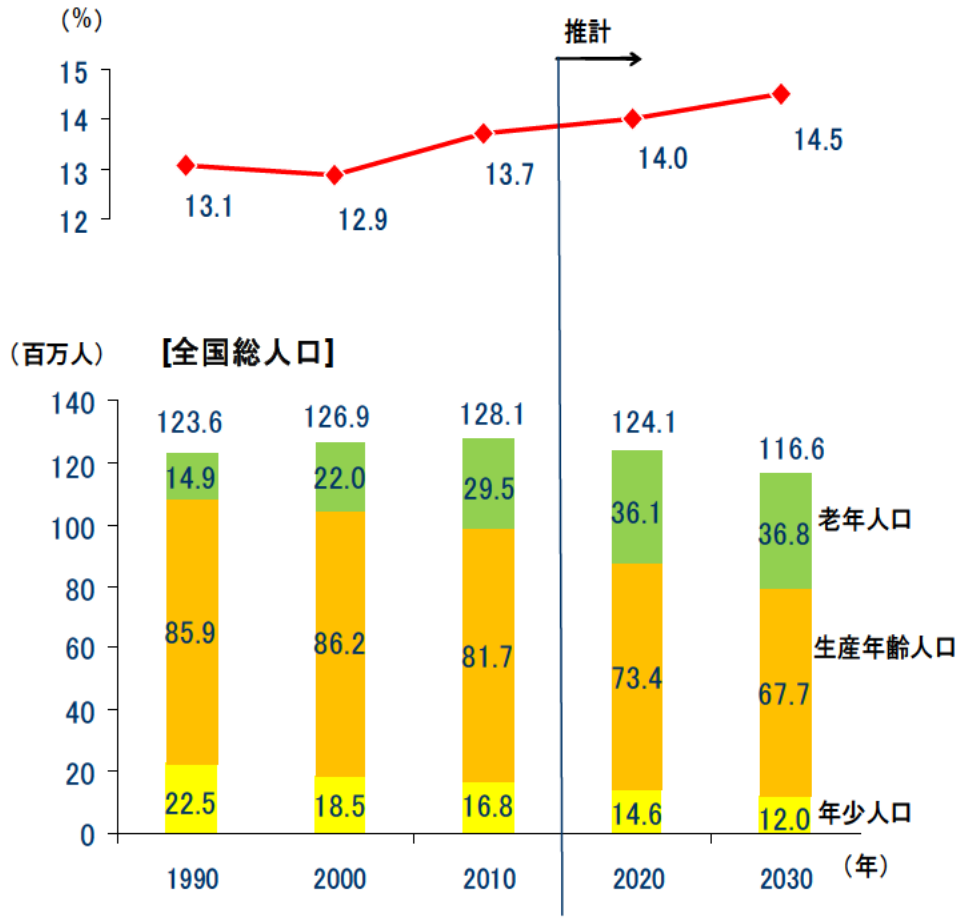
- ・コンピュータの人工知能が人間に代わって知的労働をする時代に
- ・個人の記憶をコンピュータに移して、検索や処理ができる技術が確立

（出典）三重県、リニア中央新幹線建設促進期成同盟会等、野村総合研究所「NRI未来年表2013～2060」、プレジデント社「PRESIDENT」2013.1.14号

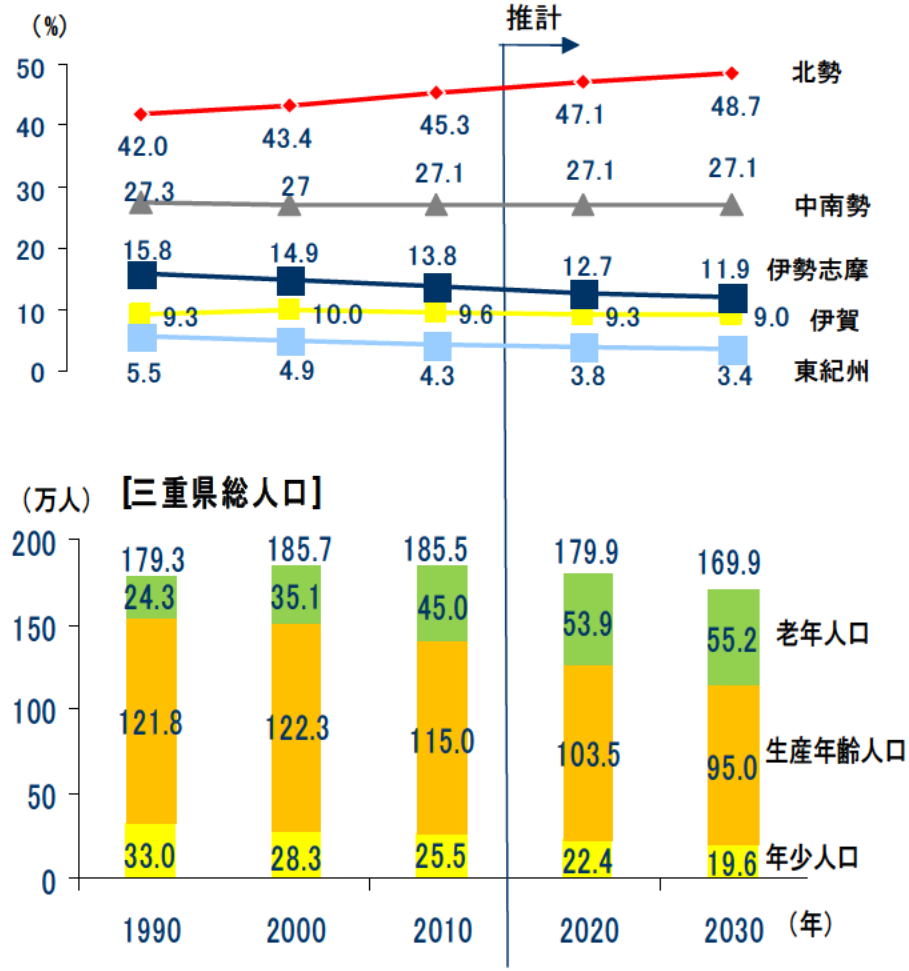
2－4．3つ目の山（2026-2027年）②

- 2030年には、日本の総人口は、2010年人口の約91%まで減少する見込み。一方で、三大都市圏（東京23区＋3大都市）への人口集中がさらに進む見込み。
- 三重県の総人口は、2010年人口の約90%まで減少する見込み。県内５圏域別にみると、北勢地域のシェアは増える一方、東紀州、伊勢志摩及び伊賀地域のシェアは減少する見込み。

（図表１－１）全国の総人口及び東京23区+3大都市（横浜市・大阪市・名古屋市）の全国シェアの推移



（図表１－２）三重県の総人口及び5圏域別の県内シェアの推移



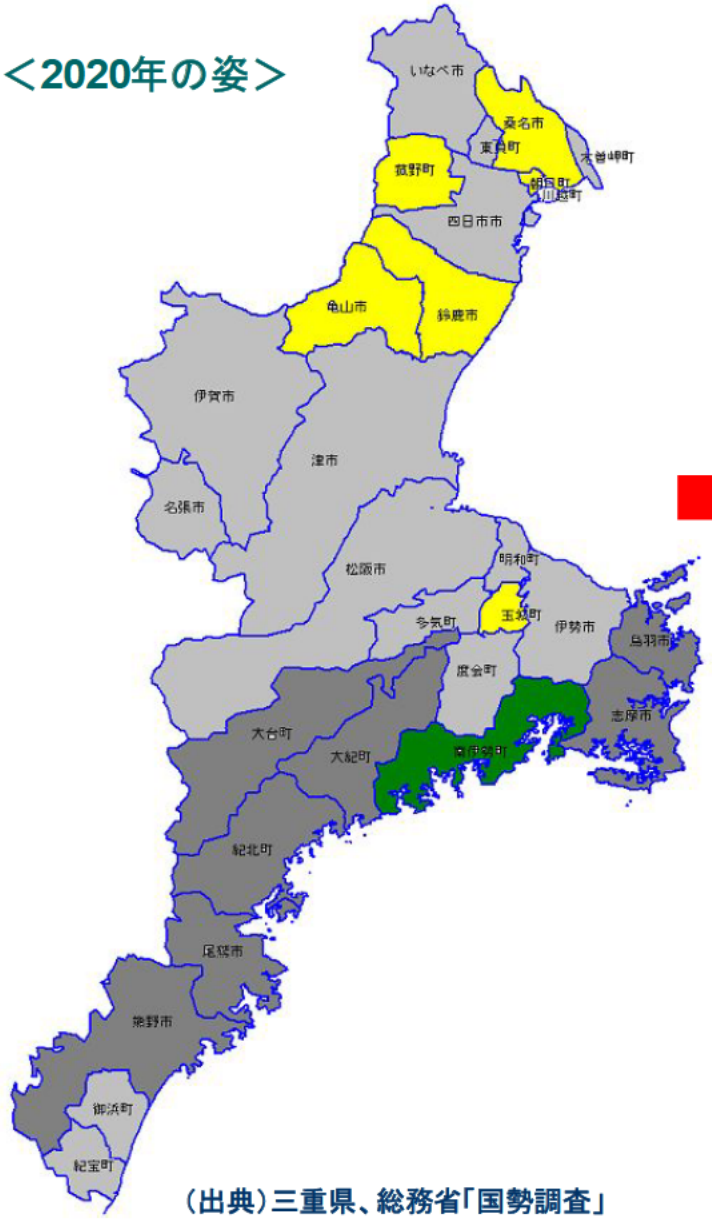
注）「年少人口」は0～14歳、「生産年齢人口」は15～64歳、「老年人口」は65歳以上の人口。

（出典）三重県、総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」

2－4. 3つ目の山（2026-2027年）（参考①）

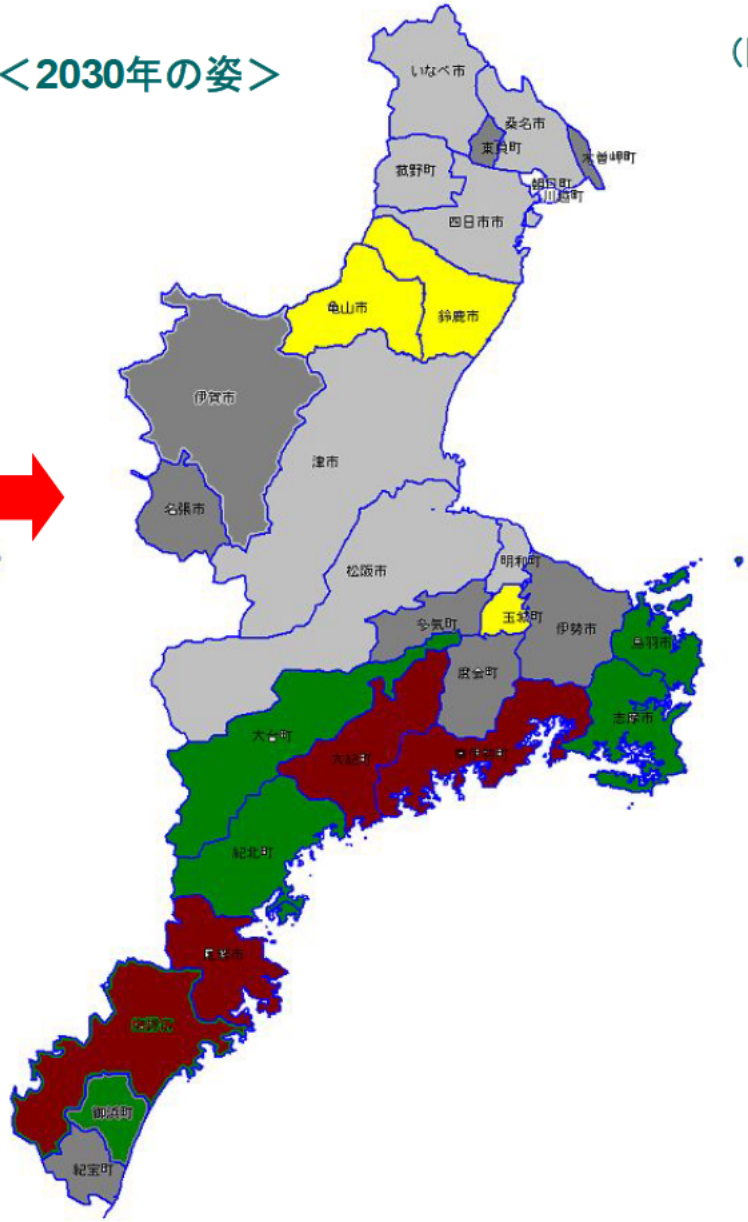
・2030年には、県内29市町の総人口は、県北部の市町を中心に2010年対比で増加する市町が見られる一方、県南部地域は減少幅が大きい見込み。

＜2020年の姿＞



（出典）三重県、総務省「国勢調査」

＜2030年の姿＞

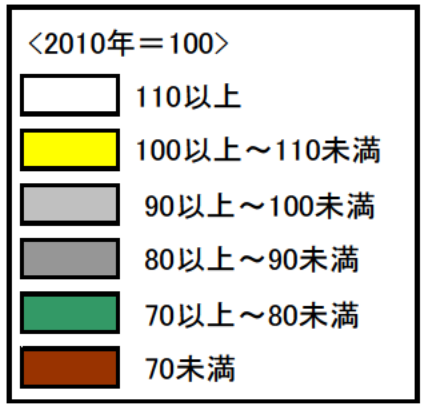


（図表2）各市町の総人口変容

（2010年＝100）

指数	市町名	2020年	2030年
2030年上位5市町	川越町	113.7	123.5
	朝日町	113.1	122.1
	亀山市	105.1	106.4
	鈴鹿市	103.2	102.6
	玉城町	102.7	102.3
2030年下位5市町	南伊勢町	78.6	60.0
	大紀町	83.3	67.2
	尾鷲市	82.8	67.5
	熊野市	84.2	69.9
	紀北町	84.8	70.3

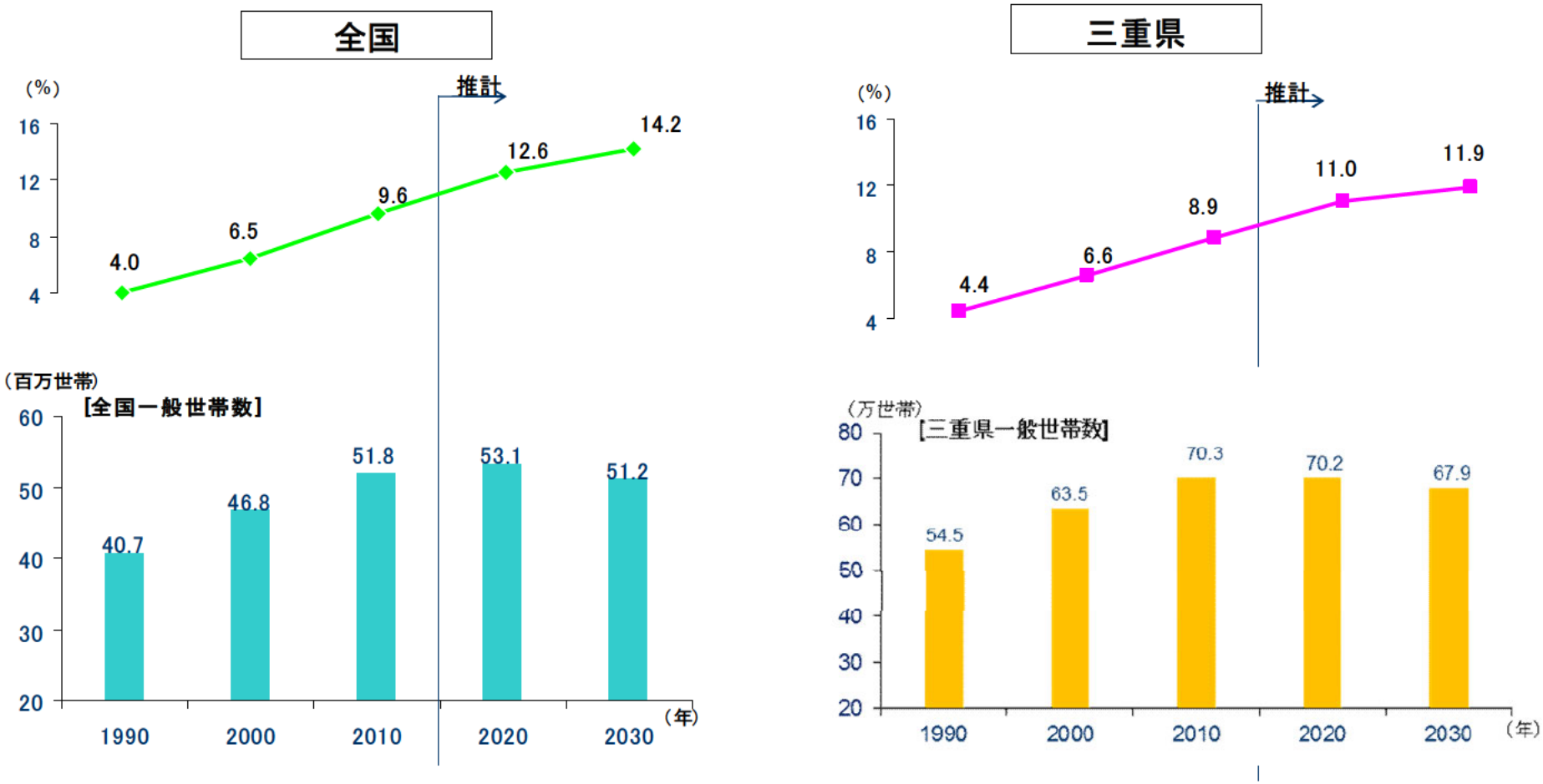
凡 例



2－4．3つ目の山（2026-2027年）（参考②）

・全国・三重県とも一般世帯総数が減っていく中で、一般世帯数に占める高齢単独世帯の割合は、2010年対比で急増する見込み（全国では14.2%と約50%増、三重県では約12%と33%増）。

（図表3）一般世帯数及び一般世帯数に占める高齢単独世帯比率の推移

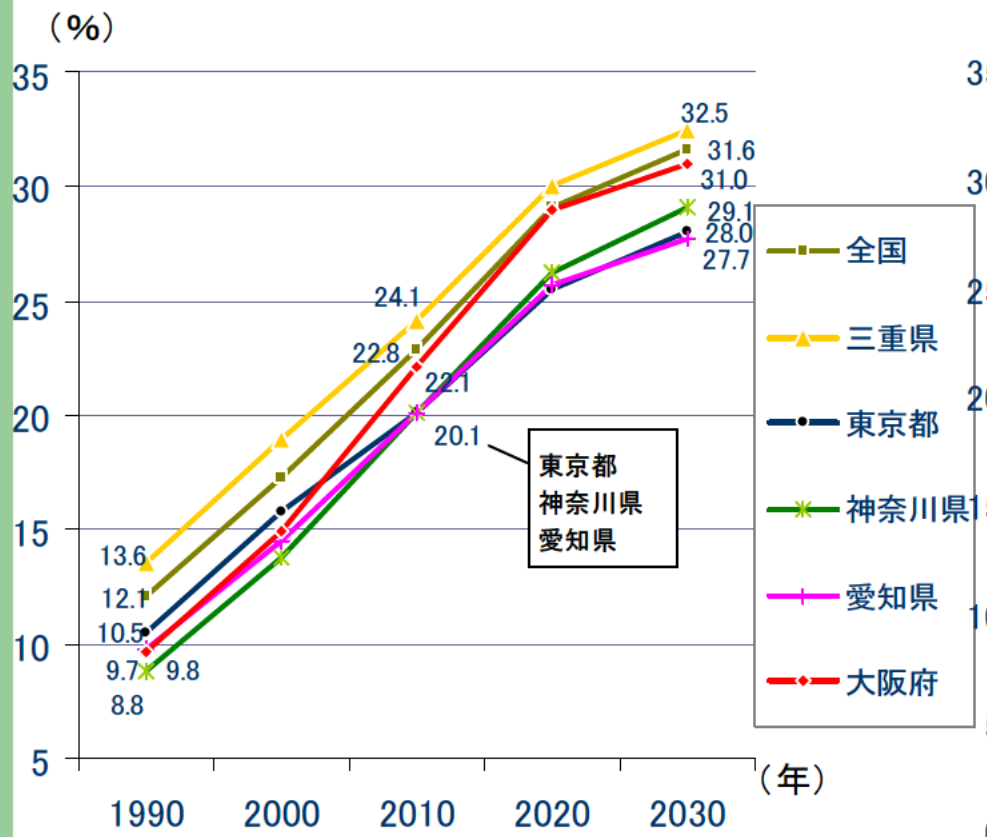


（出典）三重県、総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」「日本の世帯数の将来推計(全国推計)(平成25年1月推計)」

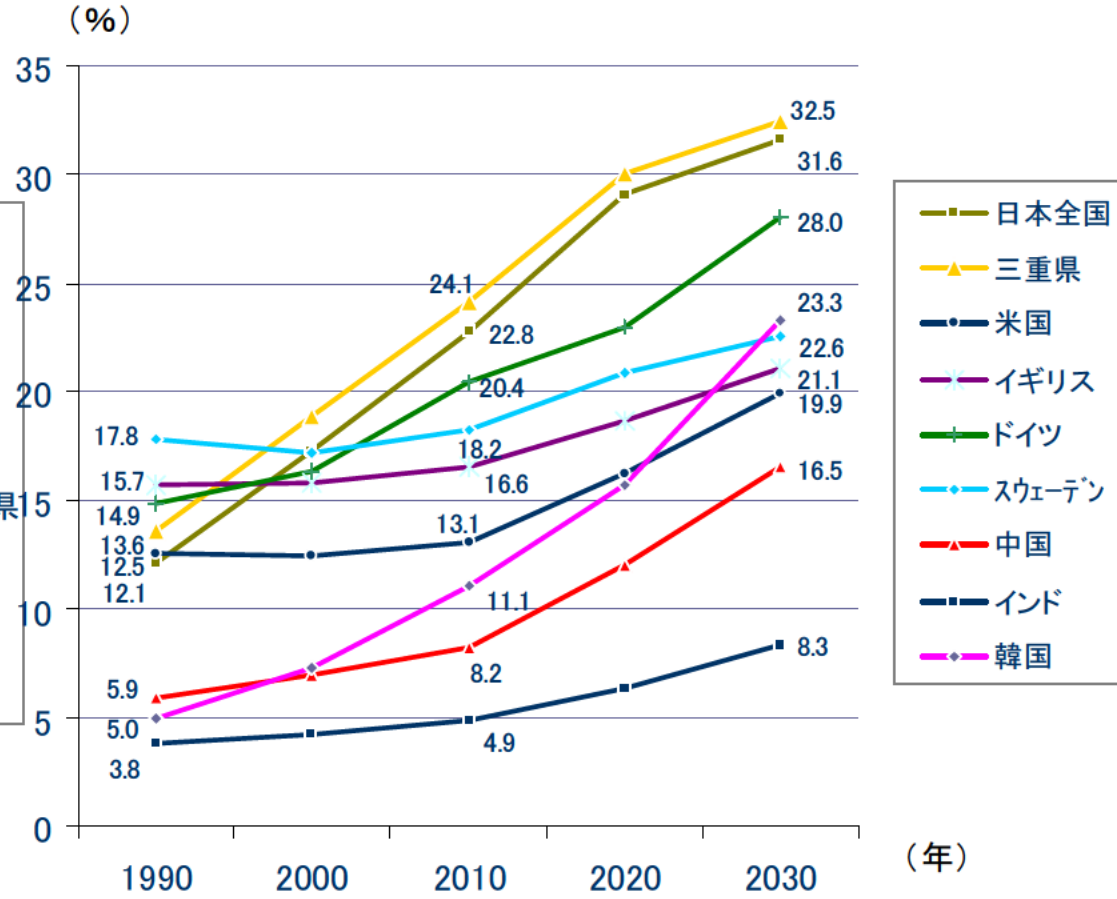
2－4. 3つ目の山（2026-2027年）（参考③）

・2030年には、人口の高齢化率は大都市圏でも約３割になる見込み。また海外でも高齢化が進み、特にドイツ、中国、韓国では急速に高齢化が進展。

（図表４－１）都道府県別人口高齢化率の推移



（図表４－２）日本及び海外の人口高齢化率の推移



（注）高齢化率は総人口に占める65歳以上人口の割合

（出典）三重県、総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成24年1月推計）」「日本の市区町村別将来推計人口（平成20年12月推計）」、UN,World Population Prospects : The 2010 Revision